

落ち着いた今、思うこと

M. D.

「ママは早くおうちに帰ってなさい！」入園してからまだ1ヶ月ちょっとの5月半ば、教室の前でいってらっしゃいのタッチとハグをした後に偉そうに息子が言いました。

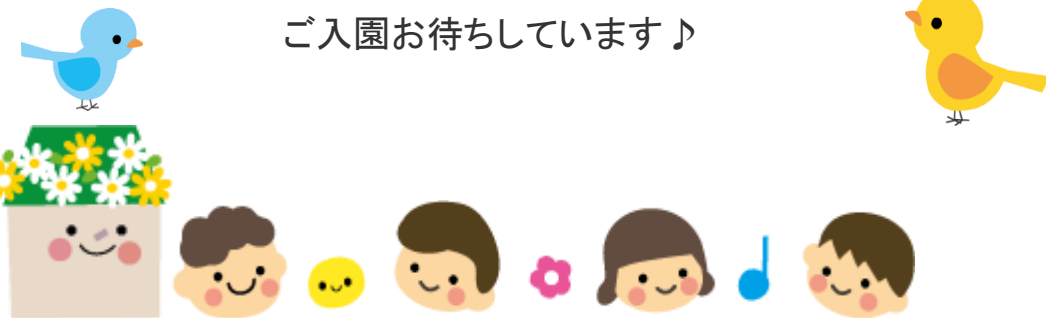
2才から通っている習い事は1年以上たっても引きずるように連れて行くこともあり、入園前は唯一通園の事を考えると気が重くなりました。どうやって片道15分の道のりを歩き、どうやって息子と離れるか、抱っこで行って先生に引き離してもらうのか、色々思いをめぐらせていました。しかしいざ通園すると道中は時には30分ほどかかりますが息子とのおしゃべりが楽しく、たしか3日目ぐらいから何の迷いもなくスーッと教室に入っていました。

今振り返ると幼稚園を決めるに当たって、何園か見学や説明会と慌ただしく行動し、必要以上に肩に力が入っていたように思います。

家でさんび歌を歌って「手はこうやって、そして目をつぶるの。」と教えてくれる息子のまぶたを見て、安心とかわいらしきで涙が出ます。

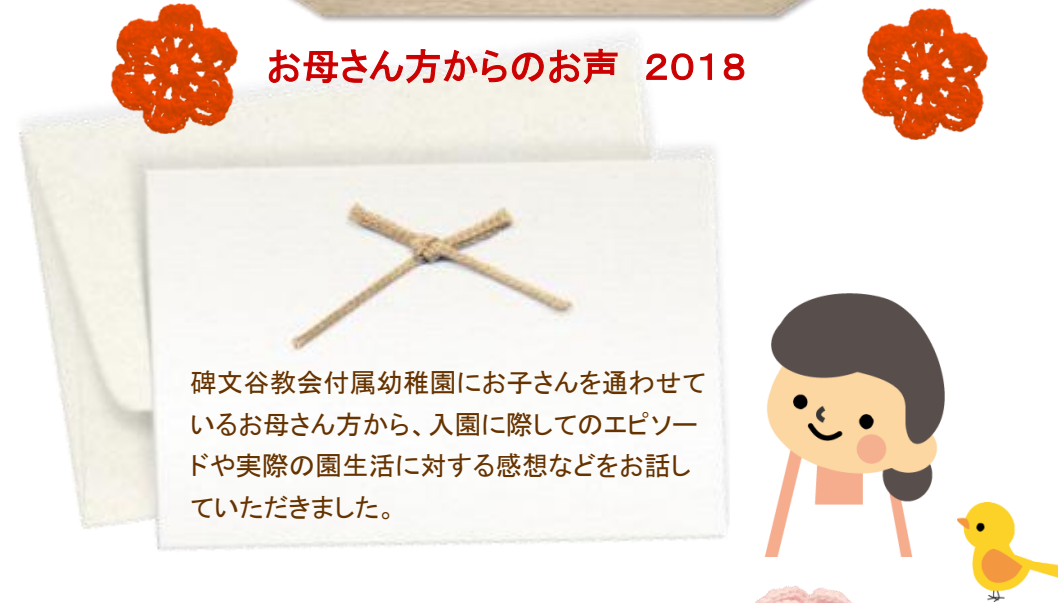
息子を通して母も素晴らしい幼稚園で成長させていただいています。

ご入園お待ちしております♪



碑文谷教会付属幼稚園

お母さん方からのお声 2018



碑文谷教会付属幼稚園にお子さんを通わせているお母さん方から、入園に際してのエピソードや実際の園生活に対する感想などをお話していただきました。

子どもたちのことをいつでも一番に

N. K.

今回の次男の入園に際して、またこちらの園にお世話になることに何の迷いもなかったほど、長男がお世話になった三年間は親子共にあたたかく喜びに満ちた日々でした。

碑文谷教会幼稚園には、延長保育も、園バスもありません。入園時の慣らし保育期間も少し長めだったり、預ける側のお母様方にとって便利な点は少ないかもしれません。ただ、それらはすべて保護者の「楽しさ」優先ではなく、あくまでも子どもたちのことを一番に考えた結果です。私は、碑文谷教会幼稚園の最大の特徴は、一人ひとりの子供に寄り添ったきめ細やかな保育だと思っています。

保育参観の仕方も特徴的です。あくまでも普段の様子を見て欲しいという考えから、一日2、3人ずつ、廊下や壁に隠れながら参観します。こうした、園児に無理をさせない、自然な姿が一番といった姿勢は随所に見られます。

次男が入園して二ヶ月が経ちましたが、何の不安もないようで、毎日とても楽しそうに健やかな笑顔で通っています。その様子を見ていると、改めてこちらの園と出会えてよかったなあとしみじみ思います。

幼稚園選びは、その三年間を親子でどう過ごしたいのかによってかなり選択肢が変わってくると思いますが、お子さんの成長を目に焼き付け、じっくり味わいたい親御さんには自信を持ってお勧めします。

少人数ならではの行き届いた配慮に安心

M. S.

年中になる息子は入園してから〇〇くんが待っているんだ！と毎日幼稚園を楽しみにして通っています。気の合う友達を僕の仲間達と呼び、戦いごっこをしたり、先生やお兄ちゃんとも相撲をしたと自慢げに話しています。

お母様方が集めてくださった空き箱を使った工作が大のお気に入り、毎日のように大きな鉄砲や剣のようなものを創り得意げに持って帰ってくる息子はキラキラしています。お陰で我が家は工作でいっぱいです。

元気いっぱいの息子には園庭が少し狭いかなと心配していましたが、自由時間にお庭で追いかっこをしたり、季節の花や虫を観察したり、滑り台をしたり、泥んこになって砂場で遊んだり幼稚園の中で沢山の遊びをします。また縦割り保育の時間でお兄ちゃんお姉ちゃんと仲良くなり、外の公園でも一緒に遊ぼうと声を掛けてもらったりする時はとても嬉しそうです。

一つ下の妹も、今年碑文谷教会幼稚園に入園させていただきました。食物アレルギーがあり心配していましたが、少人数保育ゆえに目も行き届きしっかり見てもらえて、安心して子供を送り出すことができます。誕生日会のオヤツにもアレルギーの配慮を下さりみんなと同じ物を食べられることを娘はとても嬉しそうにしています。何より子供達が元気いっぱい本当に楽しそうに毎日幼稚園に通う姿を見て碑文谷教会幼稚園に入園して本当に良かったなと感じています。

温かな思いが心を育て、大切なベースを作り上げる

Y. K.

息子は年少の年に途中入園という形で入園しました。これまでに引っ越しが続いたこともあり、長く付き合う友達もおらず遊ぶ相手は2歳下の妹ばかりでした。

そんな息子が途中入園でクラスに入り、お友達と馴染めるのだろうか、思っていることを上手に伝えられるだろうか、入ったばかりの頃は心配ばかりでした。しかし、要領が分からず戸惑う息子を先生方はとても優しく見守って下さいました。

また、私の不安までも察して下さい、息子が慣れてくるまで毎日のように園での様子や出来事を丁寧に伝えて下さいました。先生方は1人1人の個性を大切に育てて下さっています。その温かな思いが子供達の心を育て、人として大切なベースを作り上げていくんだな一と感じています。

今では「今日は幼稚園の日だね？早く遊びたいから早く行こう！」と毎日幼稚園を楽しみにしています。家に帰ってくると園で覚えてきた歌を歌ってくれたり、食事の前にお祈りをしたり、クラスで盛り上がったゲームをしてみせてくれたり、どの話も目をキラキラと輝かせて話をしています。

子供達の心に寄り添い、温かく成長を見守って下さる先生方の愛情を受けながら、のびのびと笑顔いっぱいに幼稚園生活を送れることをとても感謝しています。

みんなで子育てできる園

R. T.

『今日幼稚園で〇〇ちゃんと遊んだんだよ！明日も一緒におまごとするの！』

幼稚園から帰宅した年少の娘が、楽しそうにその日の出来事を主人に話している姿。このような光景がすぐに見られるとは、入園前には想像することが出来ませんでした。以前習い事や地域の活動に参加していた時は、緊張して輪に入る事も出来ず、話しかけるとそっぽを向いてしまう娘だったからです。幼稚園を決める際は、そんな娘が出来るだけ萎縮せず過ごせるようにと少人数保育であることを第一に考えました。

碑文谷教会幼稚園の先生方はそれだけでなく、しっかりとした優しさのもと、子供達一人一人が無理せず過ごせる安心感も与えてくださっています。この安心感は園児だけではなく、保護者全体にも伝わっています。

秋に行うフェスティバルに向け保護者皆で商品を作ります。手先が器用ではない私はドキドキしていましたが、先輩保護者達が優しく、気さくに声をかけて下さったお陰で無理なく、和気あいあいと製作することができました。全てを手作りすることは決して楽なことではありませんが、一生懸命作った作品を、嬉しそうにお買い物する子供達の姿を想像すると『見せる保育ではない』とおっしゃっていた先生の言葉が思い出されます。

その言葉は日を増すごとに感じられ、“子供のために”とは何なのか、慌ただしい毎日の中で見失いかけていた一番大切な事を気づかせてくれる、そんな幼稚園だと感じています。

まだまだこれから3年間、親子共に学んで成長していけることが楽しみです。

